
大切なあなたへ

星野由香里

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大切なあなたへ

【Nコード】

N4481Y

【作者名】

星野由香里

【あらすじ】

短編と詩などです。コナンの話okです。

作者から（前書き）

星野由香里です。

連載しました。

宜しく願います。

作者から

初めまして。 星野由香里です。
ついに短編 or 詩を出しました。
皆様からのリクエスト
お待ちしております。

この短編集をやろうと思ったのは、
いい加減連載したい、どうすればできるのだろうか？
と考えていた時でした。

短編集ならできるっと思い
書かせていただいてる詩や短編を
やらせていただこうと思いました。
皆様からのコメントが

この星野由香里に元気をくれました。
ありがとうございます。
これからよろしく願いします。

H
2
3
·
1
1
·
1
2
·
±

作者から（後書き）

これからよろしくお願いいたします。

星空（前書き）

今回は詩です。

星空

夜空を見上げると
星たちが光っている
自然の中光っている
どんなに小さな星でも
光っている

光が星たちを
美しくさせる
なんてきれいなんだ
星は星座となり照らしてる
その星を眺めよう

自然のなか光っている星達は
美しくなっている
夜空は銀河みたいだね
星を見落としても
見えてくる

星が輝いていなくても
違う星が見えてくる
だから星を眺めて
いろんな星を見よう

小さな星や大きな星も
あるけれど
個性があふれている
だから見落とさないで
光っているから

どんなに小さな光でも
星は光っている
わからなくても
小さな星は
ずっと、ずっと
輝き続ける

輝き続けるから

星空（後書き）

また感想お待ちしています。

夢（前書き）

またもや詩です。

夢

人の夢ってどんなの
それは人にしかわからない
夢があることはいいいこと
夢を持って生きてみよう
どんなになくても
見えてくる

小さな夢も持って生きてみよう
夢をあきらめないで
どんなにちっぽけでも
夢は夢
あきらめないで

夢ってあるって聞かれてら
あなたは
どうしますか
それはあなたの答え次第
夢をバカにされても
生きてみよう

夢がなくなったら探せばいい
それが夢ってもの
わからなくなったら

歩き探せばいい
小さな夢でも
持つて生きてみよう

夢がなくなつて
探せばいい
わからなくなつたら
歩き続ければいい
それが夢だから

夢をあきらめないで
希望を持とう
どんなにわからなくなつても
生きる道はあるから
夢を追いかけて
夢をあきらめないで

夢を探そう

夢（後書き）

またご感想お聞かせください。
リクエストお待ちしております。

ひまわり（前書き）

詩ばっかでごめんなさい。 m (—) m

ひまわり

夏に咲く花

明るくてまぶしいひまわり

その花がきれいだ

太陽に向かって咲いている

太陽のように

光る花が

とても美しい

光のように咲いているひまわりは

優しく包み混んでくれる

まるで太陽のように

まぶしい夏が

終わるまで咲き続けるひまわりは

温かいね

どんな時でも

咲いているね

太陽が見えなくても

太陽のところを前にして

見ている

光がひまわりを包み込んでくれる

ひまわりはきれいだね

ひまわりが枯れても
心に焼きつくから
また来年に
逢おうね

ひまわりはやっぱり
きれいだね
太陽を見つめている
だから美しい
前を向いて
前を向いて
ひまわりのように
明るく
ゆこう

ひまわり（後書き）

感想お待ちしています。

家で（前書き）

新蘭です。

家で

とある学校帰りのこと。

「蘭、うちによつてくか？」

「うん。行く。」

工藤邸。

「相変わらず広いわね。」

「そうか？」

「さすが道楽息子。」

「わりいかよ。」

「だんだん眠たくなってきちゃった。」

――夢――

「あれ、ここはどこ？」

「新一だ。」

「新一、新一。」

「新一待つてよ。」

「新一？」

「ねえ、どこ行くの？」

「嫌だよ、おいていかないで。」

「新一。」

「蘭、らん。」

「は、新一だ。」

「大丈夫か？」

「うん。怖い夢見ちゃった。」

「寝不足か？」

「大丈夫。ねえ、新一。」

「なんだよ、蘭。」

「もう二度といなくならない？」

「バー口、当たり前だろ。」

「よかった。」

蘭はかえっていった。

おれはあいつの前から、ぜってえ、いなくならねえ。
だって、あいつのこと愛してる。

蘭、世界で、一番愛してるよ。

家で（後書き）

新蘭です。

u s aちゃんからのリクエストでした。

お読みください。

月（前書き）

詩です。

月

夜が長くなる
月が始める
月は太陽と違い
孤独を照らす

月の光が
孤独の僕を探してくれる
孤独を見つけてほしいんだ
孤独を照らす
月になりたい

月は心を映す
月がまるで
透きとおすように
照らされた
心は

孤独とともに
照らされてる
月が心を照らしている
心を大事に
生きて

月が心を隠しても
見抜いてしまう
だから、だから
照らしていて
月のように

月が心を照らしている
まるで光のように
孤独を歌い上げる
僕のように
孤独を
孤独を
探して

見つけて

見つけて

月（後書き）

感想お待ちしています。

歌（前書き）

詩です。

歌

歌ってどんなの
人それぞれだからわからない
人の歌は
照らしてくれる

歌を君にあげよう
悲しんだりしたら
その歌を聞いてごらん
きっと勇気が出るよ
歌を聞いて

歌はそれぞれ
違っている
でもみんなきれいだね
つらくても
歌は君のもとへ

歌を聞いてごらん
優しく聞こえるよ
どんなに小さな
希望が見えてくるよ
歌を歌おう

つらくても、悲しくても
歌は人々を

つなげてくれるから
いっしょに歌おう

歌がへたくそでも

大丈夫

みんなうまいんだよ

自信を持つて

歌おうよ

君に捧げる歌を

歌おうよ

歌おうよ

歌（後書き）

感想お待ちしています。

甘えん坊（前書き）

新蘭。

甘えん坊

とある日曜日のこと。

実は蘭と新一はデートの約束をしていた。
でも……

「新一、ごめん。デート無理だよ。」

「なんで？」

「風邪ひいて、ゴホ、ゴホ。」

「無理するな、おっちゃんは？」

「お父さん、麻雀だよ。」

「俺が看病するから蘭、寝てろよ。」

「いいの？」

「大丈夫、なんとか……」

（心配だな……）

「おかゆぐらい俺にも作れるぜ。」

「えっと……これをこうして、あれをこうして。」

「あれ、あーっ焦げた。」

「ねえ、新一焦げたにおいしない？」

「気のせいだ。蘭寝てろよ。」

「うん、何か怪しい。」

「うし、できた。」

「蘭、起きれるか？」

「うん、なにこれ？」

「見ての通りおかゆだ。」

「え……。」

「これを私に食えと……。」

「ああ、わりい蘭。」

「いいわよ、ありがとう新一。」

「何とか食べれたな。」

「うん、ありがとうね。」

蘭はすっかり寝た。

蘭が寝ているときに新一は

蘭にキスをした。

甘くて優しいキスを……

蘭が起きた。

「今日はなんかごめんね、ありがとう新一。」

「気にするな、あんなへたくそな料理でわりい。」

「んじゃ、また明日。」

「うん。」

「ううして早い一日が終わった。」

甘えん坊（後書き）

逆バージョンです。

感想お待ちしています。

文化祭で・・・・・・（前書き）

またもや新蘭、平和です。

文化祭で……

高校の文化祭の内容は……

メイド&執事喫茶。

「蘭ちゃんかわいい。」

「和葉ちゃんありがとう。」

「なんや、工藤似合ってるで。」

「見んな、服部。」

「工藤君かつこええな。」

「それはどうも。」

「愛想悪いなあいつ。」

「ごめんね、服部君。」

「まあ、ええけど。」

「姉ちゃんも似合ってるで。」

「ありがとう。」

「それにしてもすごい客やな。」

「そうなの。新一のおかげなの。」

「新一が嫌がったんだけど、出てくれるようになったの。」

「おまえ、まさか工藤、姉ちゃんの監視か？」

「うるせー、バロしゃあねえだろ、蘭の頼みなんだから。」

「さすが工藤君やな。」

あるオタクみたいの人が入ってきた。

「いらっしやいませ、メイド執事喫茶にようこそ」

「ウーロン茶一つ。」

「わかりました。」

蘭はあるオタクの一人に声をかけられた。

「ねえ、メイドさん、遊ばない？」

「嫌です。」

「ねえってば、」

「痛い、離して。」

「やめていただけませんか？」

そこに新一が現れた。

「その人、俺の恋人なんで。」

新一は今すぐキレそうだった。

「すみませんでした。」

オタク二人は出て行った。

「蘭、行くぞ。」

「へ、どこに？」

「いいから。」

蘭は新一に連れられて、校舎の裏側にいた。

そして、キスをされた。

甘くて激しいキス。

「なかなか、息ができない。」

「ぷっつは。」

新一は蘭の唇をようやく離れた。

「蘭、もう二度とその恰好をするな。」

「うん、もしかしてやきもち焼いた？」

「あたりめえだろ。」

「新一、かわいい。」

「バー口、うるせえ。」

こうして、忙しい文化祭は終わった。

甘くて、激しいキスはいかが？

文化祭で・・・・・・（後書き）

感想お待ちしています。

冬空（前書き）

詩です。

冬空

秋が終わると

冬が来る

悲しい季節が訪れようとする

冬は悲しみもある

寂しさゆえに

冬空が寂しさをぬぐってくれる

さびしいよ

君がいないから

冬は別れの季節に

冬空は切ない

冬から春になると

君に逢いたくなる

なんでだろうか

君がこんなに好きで

好きでたまらない

冬は恋の季節

なんて切ないのだろうか

悲しみが出てくるよ

悲しいな

冬が終わって春に

君に逢いたい

冬空を超えて
君に逢いたい

冬空を超えて
君に逢いたい
君に
君に

逢いたい

冬空を超えて

君のもとへ

冬を超えて

逢
い
た
い

冬空（後書き）

感想お待ちしています。

花火（前書き）

新蘭の告白です

花火

とある夏休み。

それは嬉しい夏休みの話

「新一、まだ？」

「わりい、待たせて。行くか。」

「うん。」

今日は夏祭り。

「新一、すごいよ、屋台。」

「ああ、今年こそ蘭に告白するぞ。」

「ねえ、何か言った？」

「嫌、なんでもない。こつちの話。」

蘭は不思議そうに思った。

花火が打ち上げられて。

「新一、花火綺麗だね。」

「ああ、綺麗だぜ。」

「実はさ、おれ、俺はずっと蘭のことが好きだった。」

「新一、嬉しいよ。あたしも、あたしもずっと新一のことが好きだった。」

2人は寄り添いあい、影を一つにし、キスをした。

「蘭、愛してるよ。これからも。この先ずっと。」

「あたしもずっとこの先新一を愛し続ける。」

花火が両思いの2人を結ばせた。

「「蘭、新一、大好き。」」

花火（後書き）

また感想聞かせて下さい

素直（前書き）

詩です。

素直

人はどうして素直になれないのだろうか
気持ちを伝えてくても
伝えられない
素直になりたい

素直な自分になりたくて
でもなれなくて
悔しくて
本当は素直になれば
いいのに

人の心はわからない
どうしたらわかるのだろうか
でも自分に嘘をついたらダメ
自分だけは素直なままで
いよう

本当は弱虫で
何もできない自分がいて
でも、素直になりたいくて
ここの自分に
声を聞かそう

なかなか素直に
なれないけど
君の前では

素直な自分でいたい
弱虫でもいいから
素直になりたい

素直になろうよ
はずかしくても
ちよつとでもいいから
素直になろうよ
大丈夫だから
少しだけ勇気を
出そうよ

素直になろうよ

素直になろうよ

素直（後書き）

感想お待ちしております。

旅人（前書き）

詩です。

旅人

旅はいつから始まり
いつ終わるの

それは人それぞれだ
旅が長いほど

人の人生は

旅人のようで

旅が終わるまで旅えるまで
旅を続ける

それが旅

旅人のように
歩いていこう

旅が終われば

また、旅が続く
終わりのない旅

旅の休みは必要

休んでまた旅を続けよう

旅が終わるとき

また始まりが来る

また、旅が始まろうとする

その旅が永遠と続きますように
旅をしよう

旅が長くても
果てしない旅
それが旅人だから
歩いて、歩いて
いこうよ

ゆっくりと歩いていこうよ
自分が目指す目的地まで
夢も同じだ
旅をしてわかることもある
だから旅を続けよう

ときに流れて
旅を続けよう
旅人のように
旅を続けよう

旅人のように

旅人（後書き）

感想お待ちしております。

生きる意味（前書き）

詩です。

生きる意味

人はなぜ生きているのだろうか
それはわからない

一つだけ言えるのなら
いかされているってこと

生きる意味なんて誰もわかりやしない
それが・・・

生きる意味なんて
わからなくてもいいんだよ
それが本当なんだから
その意味が

いつか、いつかわかるから

答えを焦らなくても
いいんだよ

わからなかったら
探せばいい

探して見つけるのが

生きる意味かもしれない

どんなにわからなくなっても
いつか答えが見つかる

あきらめないで

きつと、きつと

見つかるから

今考えてもわかりやしない

大人になるから

大人になって知るから

生きる意味を・・・

これからの・・・

生きる意味はいつかわかるよ

それが生きる意味なんだ

今、わからなくてもいいんだよ

少しずつ、少しずつ

探していこう

それが・・・

生きる意味なんだ・・・

生きる意味（後書き）

感想お待ちしています

大切な人（前書き）

詩です（新一のつぶやきみたいなの？感じですよ）

大切な人

あなたには大事な人がいますか
私にはいます

この世で大事な人
その人を私は

大切な人よ

悲しまないで

つらいときは僕に言って

助けるから

いつだって、君を

守るから

どんなに大切でも

守れなくては意味がない

だから、君を守れるよう

僕も君から守ってみせるよ

君の笑顔が見たいから

君へ

この言葉を贈るよ

愛してる、愛している

世界で一番

愛しているよ

だから僕の傍にいて

君を守るから

君をすべてから守りたい
大切な人よ
泣かないで
僕が守るから
幸せでいて

大切な人よ
笑っていて
君の笑顔が僕を
勇気に変えるよ
どんなに怖くても
君がいれば
僕は戦えるから

大切な人よ

大切な人よ

大切な君へ

笑顔でいて

大切な人（後書き）

感想お待ちしています。

やきもちpart1(前書き)

新蘭です。

やきもち part 1

江戸川コナンから工藤新一に戻ってからある日のこと。

工藤邸にある人物がやってきた。

「ねえ、新一遅刻しちゃうよ。」

「わあってる、今来るから待ってる。」

「本当にコナン君が新一だったなんて・・・」

「おーい蘭、行くぞ。」

「あ、ううん。」

二人は仲良く登校していった。

「ねえ、園子、新一は？」

「コクられてるんじゃないの、奥さん？」

「園子、奥さんって。」

「らーん、呼びだしたよ。」

「わかった、今すぐ行くね。」

「誰だろ？」

体育館の裏。

「毛利さん、おれ、俺と付き合ってください。」

「え、誰ですか？」

「田中です。」

「ごめんなさい、あたし好きな人いるの。」

「工藤新一新一なんだろ。」

「え、」

「あいつモテるしな、でも一回ぐらいデートしてよ。」

「嫌です、」

「いいじゃないか。」

「離してください。」

ある男がダッシュしてきた。

「らん。」

「新一？」

「蘭に何してるんだよ。」

「げ、工藤新一じゃねえかよ。すいませんでした。」

「新一、ありがとう。」

「蘭、俺お前のこと好きだー！。」

「え、！？」

「俺と付き合ってくれないか。」

「うん。」

放課後。

「ねえ、新一なんでここがわかったの？」

「園子に聞いたから。」

「もしかして、新一やきもちやいたの。」

「当たり前だろ。大事な女譲れるか。」

「ありがとう、新一。大好き。」

新一は顔を真っ赤にした。

やきもちはさねたいですか？

やきもち part 1 (後書き)

新一君のやきもちでした。

面白かったです。

あの、新一君がやきもちやくので。

感想お待ちしています。

喧嘩は怖い！？（前書き）

またもや、新蘭です。

喧嘩は怖い！？

新一と蘭が付き合ってからのある日のこと。

「ねえ、新一、事件とあたしどっちが大事？」

「それは・・・」

「やっぱり事件なんだ。」

「そんなこと言ってねえだろ。」

「顔に書いてるもん。先に行くから。」

「おい待てよ、らん。」

帝丹高校。

「あら、奥様、旦那と喧嘩したの？」

「別に、違うけど。」

「どうしちゃったのよ、蘭。」

「新一にね、事件とあたしどっちが大事か聞いたの。」

「うん、それで？」

「何にも答えてくれなかったのよ。」

「はーん。わかったわよ、蘭。新一君恥ずかしいのよ。」

「え、そうなの？」

「それ以外ないわ。」

「ありがとう、園子。」

「新一君探しに行つて来たら？」

「うん。」

蘭は新一を探しに行った。

「世話のかかる人たちですこと。」

「新一、」

「あれ、蘭か。」

「さっきはごめんね。」

「俺こそ悪かった。」

「俺は、事件よりも蘭が大事だ。」

「嬉しい、ありがとう。」

「なあ、蘭なんで聞いたんだよ？」

「ちょっと不安になっただけ。」

「かわいいな。蘭。」

そういつて、新一は蘭にキスをした。

たまーに喧嘩はいかが？

喧嘩は怖い！？（後書き）

喧嘩です。

初めて書いたので緊張しました。

ぜひお読みください。

やきもち part 2 (前書き)

なんと・・・

平和です。

変な関西弁だったら、すいません。

やきもち part 2

組織がつぶれ、平次も傷を負い、入院していたところの話。

301号室。

「トントン、平次寝てる？」

「寝てないで、和葉どないしたん？」

「うっん、見舞いに来てん。大丈夫なん？」

「ああ、すっかりよくなったわ。」

「りんご剥いてきたさかい、食べる？」

「もらっわ。」

とうとう、退院の日がやってきた。

「すっかりよくなったわ、ありがとうな。」

「無茶はいけませんよ。」

「おう、えあかつとるさかいに、おおきに。」

「平次、退院おめでとう、お好み焼き食べにいかん？」

「おお、ええで、そんなら行くか。」

「うん。」

二人は行きつけのお好み焼き屋さんに行った。

「平ちゃん、久しぶりやな。」

「おう、オツチャン、豚玉2つ。」

「おう。」

「やっぱ、オツチャンのお好みうまいな。」

「なあ、平次、蘭ちゃんたち結ばれたんしつとる?」

「ああ、よかったで、あいつら。」

「平次の初恋の人って誰なん?」

「それは・・・」

「やっぱええ、うち帰るわ。」

「ちよい待て、和葉。」

平次は和葉を追いかけた。

「なあ、姉ちゃん、俺らと遊ばない?」

「いえ、結構です。」

「ええやないか。」

「離して、平次助けて。」

「何やつとねん、俺の和葉に手出すな。」

「服部平次やないか。すいませんでした。」

男たちは逃げて行つた。

「なあ、和葉、俺の初恋の人は・・・お前や。」

「えーーーー、うそやん。」

「ほんまや、だから俺と付き合ってくれ。」

「うん。」

その場でキスをした。

「平次大好き。」

「俺もや。」

そうして、一日が終わっていった。

やきもちはどうですか？

やきもち part 2 (後書き)

初めての平和です。

感想お待ちしています。

たった一つの真実（前書き）

コ
蘭
で
す。
。

たった一つの真実

とある夕方の出来事・・・

「コナン君、夕ご飯だよ。」

「わかった、今すぐ行くね。」

「蘭に本当のことを話そう。」

そう決めて、降りて行った。

夕ご飯・・・

「「いただきます」」

「蘭姉ちゃんおいしいね、このハンバーグ。」

「よかった、気に入ってくれてうれしいよ。」

「僕、蘭姉ちゃんの料理大好きだよ。」

「うん、ありがとう。」

夕ご飯後・・・

「蘭姉ちゃん、今いい？」

「待つて、今行くから。」

「コナン君どうしたんだろ？」

「蘭姉ちゃん、実は・・・」

「なに、コナン君。」

「俺は工藤新一なんだ。」

「え、うそでしょ。そんなことあるはずがない。」

「それがあり得るんだ。」

「どいいうこと？」

「蘭、覚えてるか？俺と一緒にトロピカルランドに行ったこと。」

「うん、覚えてるよ。」

「あの、時に俺は黒ずくめの男に殴られて、毒薬を飲まされた。」

「うそ、」

「その薬がアポトキシ4869っていう薬を飲まされ、体が縮んだ。」

「そんなことが・・・」

「それで、ばれないように蘭の家に住み込んだわけ。」

「新一。」

「今まで、だまして悪かった。謝ってすむ問題じゃないと思ってる。」

「新一、いいよ。ありがとう。すべて話してくれて、つらかったよね。」

「蘭…おれ、蘭のことが好きだ。コナンになってもずっと好きだ。」

「新一大好きだよ。」

蘭に抱きしめられた。新一も抱きしめ返した。

「「蘭、新一、愛してるよ。」」

真実はたった一つ。

たった一つの真実（後書き）

コ蘭です。

初めてかきました。

お読みください。

流れ星（前書き）

新蘭です。

夏終わっているのに・・・

七夕です。

すいません。

流れ星

七夕の日の出来事。

蘭は工藤邸に向かっていった。

「ピンポン」

「あーい、蘭があがれよ。」

「うん。」

今日は工藤邸で星の観察に来た。

「ねえ、新一、高くない？」

「そうか？でもきれいじゃん。」

「そうだね、新一と見れてよかった。」

「ああ。」

二人は星空を見上げた。

「ねえ、今日って何の日か知ってる？」

「七夕だろ。織姫と彦星だろ。」

「うん、今までそんな感じだったね。」

「ああ、俺が彦星で、蘭が織姫だろ？」

「新一はあたしの前からいなくなっちゃって、まさかコナン君になつてたなんて。」

「俺も驚いてるさ。まさか幼児化するとは思わなかったけどな。」

「でも、こうして新一と星見れてるんだね。」

「ああ。」

「あ、流れ星。」

「蘭、何か願い事したのか？」

「うん。一つは空手の都大会に優勝すること。もう一つは新一の傍にずっといること。」

「らん。」

「新一は？」

「俺も蘭と同じ。蘭の傍にすること。」

「ねえ、新一、もういなくならないよね？」

「当たり前だろ。バー口、心配するな。」

「うん。ありがとう、新一。」

二人はくっつき抱きしめあいキスをした。

流れ星、七夕はどうですか？

流れ星（後書き）

新蘭でした。

七夕と流れ星いかがですか？

ぜひお読みください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4481y/>

大切なあなたへ

2011年12月2日19時52分発行